



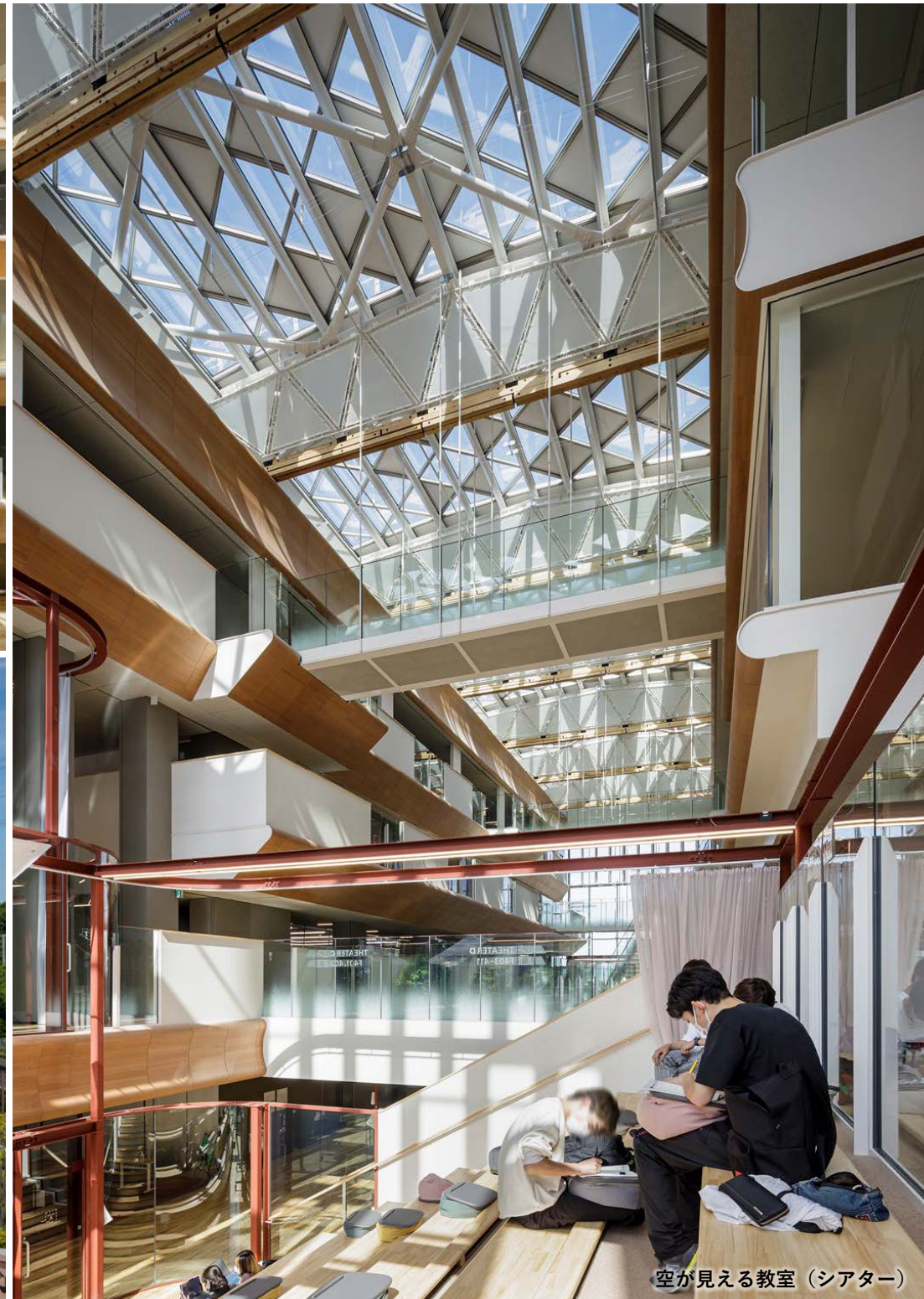
キャンパス軸上のアトリウムと輪状的に配置した空が見える教室（シアター）



空が見える教室（シアター）を内包したアトリウムと連続する内外部の環境



郊外型キャンパスの魅力を活かしたキャンパスゲートとしての学びの場



空が見える教室（シアター）

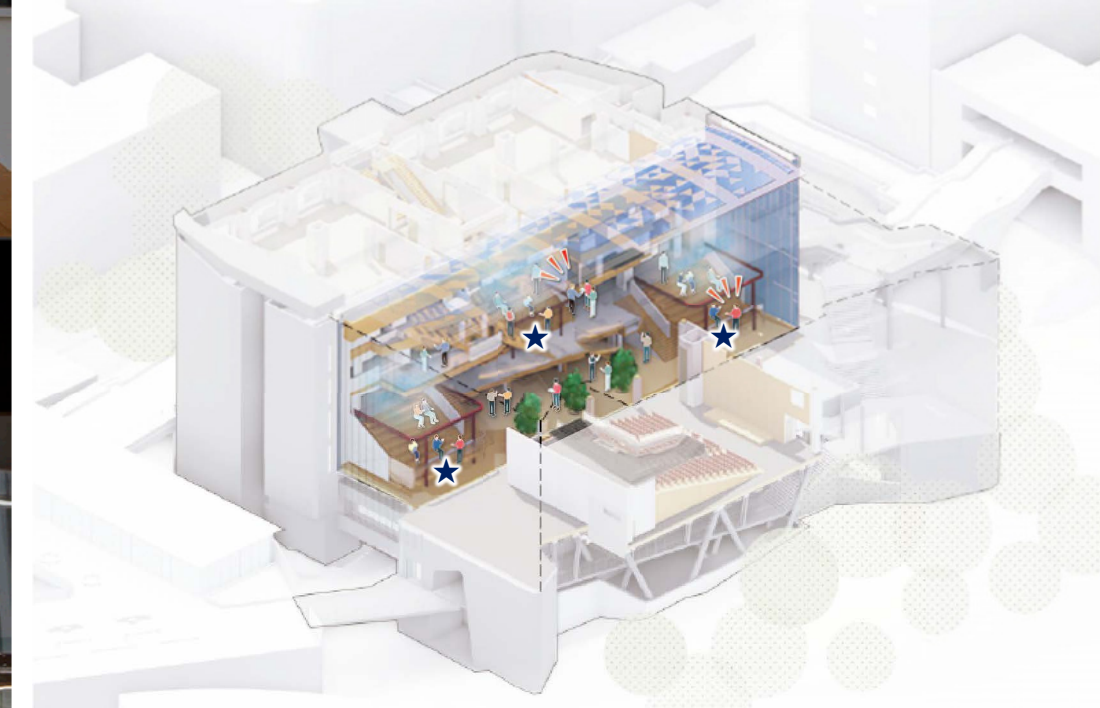
Concept

「交流を促す「空が見える教室」

中央大学多摩キャンパスに建つ、各学部活用可能な学部共通棟です。中央大学は、都心と多摩、それぞれの魅力を顕在化したキャンパス再編計画に取り組んでいます。本計画の敷地は、元々は多摩キャンパスの「周縁」だった場所にあり、2000年多摩モノレール開通後、駅前の「玄関口」として機能してきた場所にあります。今回の再編計画において、学修支援・情報発信・グローバルゾーンとして指定し、地域住民を含めた交流拠点としての「学びの場」を実現することが目的でした。

そこで、自然豊かな外部環境と堅牢な既存キャンパスを踏襲しながらも、豊かな外部環境が内部まで連続し、そこでの活動がキャンパス全体に発信できるような建築を目指しました。具体的には、既存キャンパス軸線上にピスタが通ることから、その軸線上に透明なアトリウムを計画し、アトリウム内部に天井の無い空が見える教室（シアター）を離散的に配置しました。それらが一体となり、アトリウム全体が教室となる構成です。

アトリウムに至る動線と講義・演習室、背景の自然が空間的に連動し、自然環境と一体化した「安心して学べる場」を創り込み、アトリウムという一義的な空間を★「空が見える教室」を配置することで活性化し、様々なアクティビティを喚起する、新しい教育・交流空間の在り方を創出しました。



「空が見える教室」を起点とした、アトリウム全体の教室化

2-1. 外部と連続する開放性と快適性を両立した教育環境の構築（平面・断面計画）

建物内部の環境特性に対応し、適度な設備スペックに頼らず、場所ごとの特性に適切に応答した柔らかな環境制御を目指しました。カーテンで仕切られ天井の無いセミクロズの空が見える教室（シアター）を、トップライトや大型ACWによりキャンパス軸線上の「ゲート」性を付与した透明なアトリウムと一体化させ、豊かな外部環境を取り込み、施設内外の利用者や、講義・演習のアクティビティが連動して「知の交流」を促す、従来にないラーニング commons の創出を試みました。

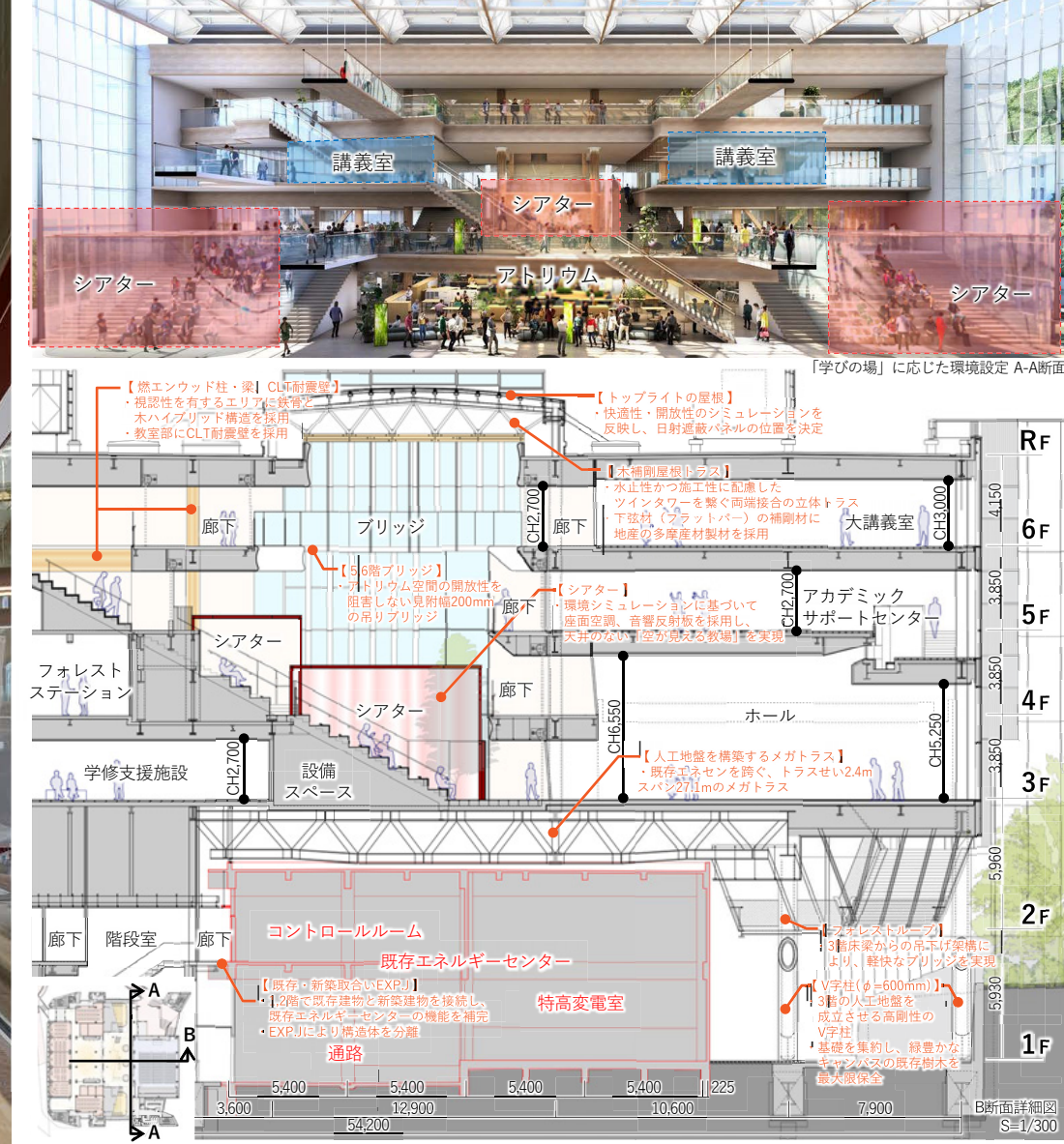


ピスタの通る既存エネルギーセンター上に透明なアトリウムを配置



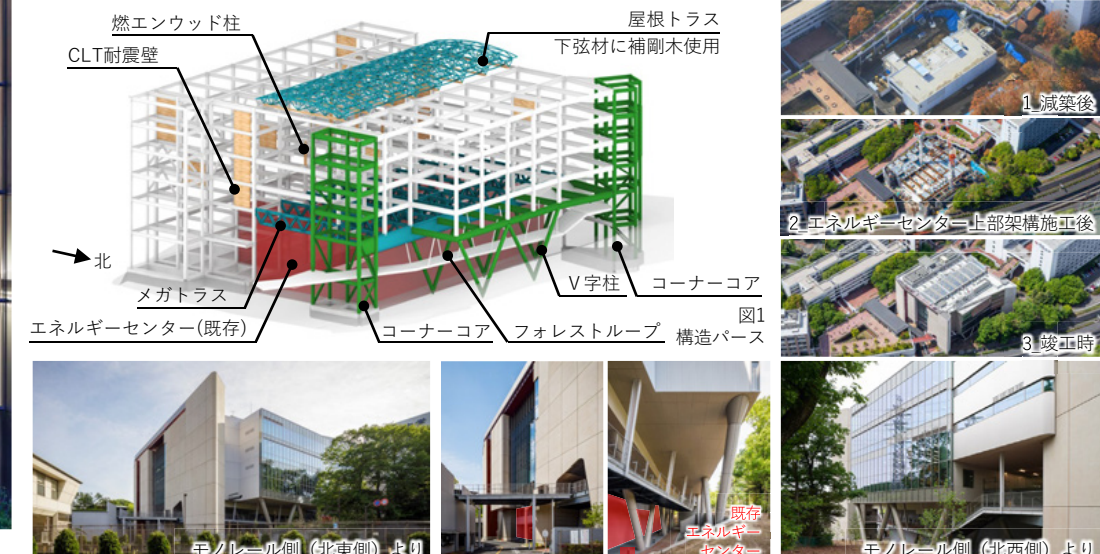
2-2. 外部と連続する開放性と快適性を両立した教育環境の構築（環境計画）

開放性（天空率）と快適性（SET*）を指標に、アトリウム全体を対象とした超高解像度のシミュレーションを実施し、シアターを対象とした空の見え方（天空率）と年間授業利用時間帯に直光が入らないことを条件として、東西C/Wの縦フィン形状と木漏れ目のようなトップライトの遮蔽パターンを導きました。これらのシミュレーションはVRでの期中検証、竣工後ARでの実証確認を実践し、シミュレーション範囲内であることも確認しました。



3. 周辺環境と連続する木質・木造を使用した構造計画

アトリウムを挟んで南北に分かれる構成を構造的に一体化する立体トラスの補剛材や、耐久木造の柱・梁、CLT耐震壁、仕上材を含めた多摩産材を積極的利用し、一部は、森林グランドサイクルの一端として多摩森林木の伐採WSを学生・学内関係者と行い、建材利用しました。



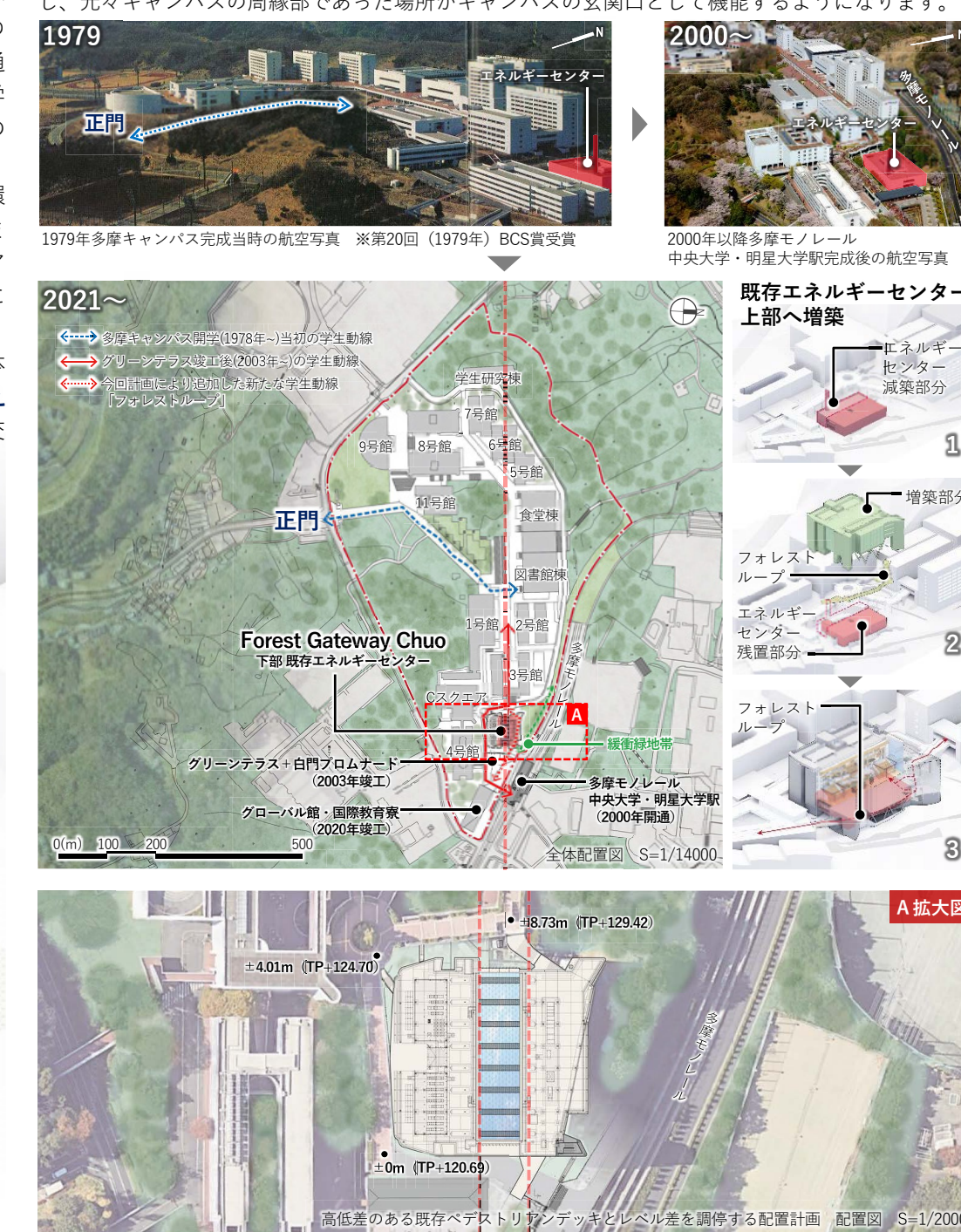
4. 空が見える教室（シアター）を覆う外装計画

空が見える教室（シアター）とアトリウムは、大型のトップライト・ACWで構成し、既存キャンパス群と対する南側ファサードは、昼光利用と日射遮蔽を最適化する形状として円弧上の底を採用しています。

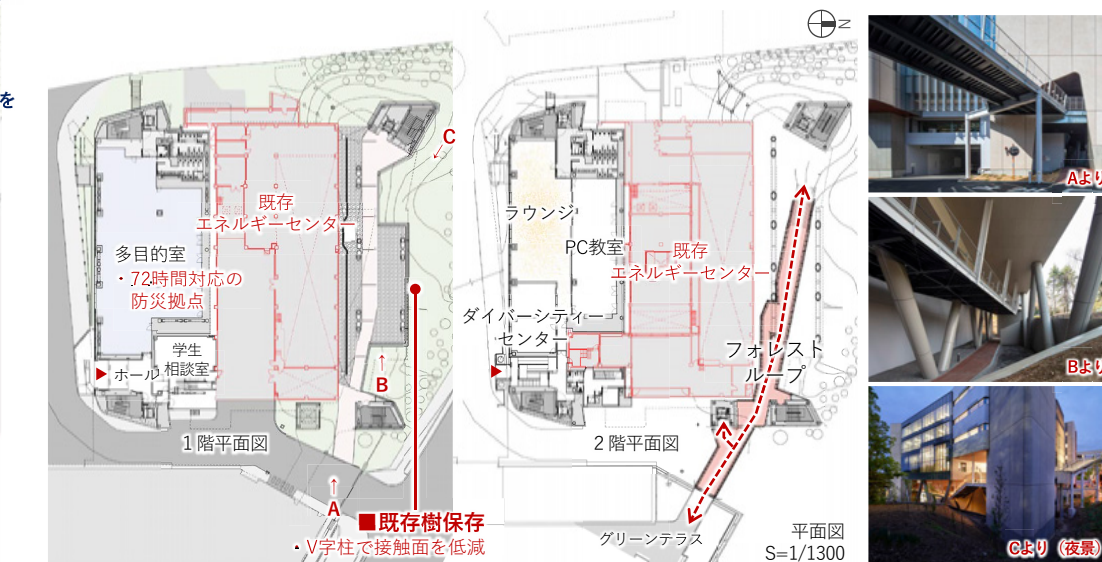


1. 郊外型キャンパスの魅力を活かした配置計画

中央大学は、1978年に都心から多摩キャンパスに移転しました。多摩モノレールが2000年に開業し、元々キャンパスの周縁部であった場所がキャンパスの玄関口として機能するようになります。



既存ベネディクトアンデッキと接続する新たな回遊動線「フォレストループ」

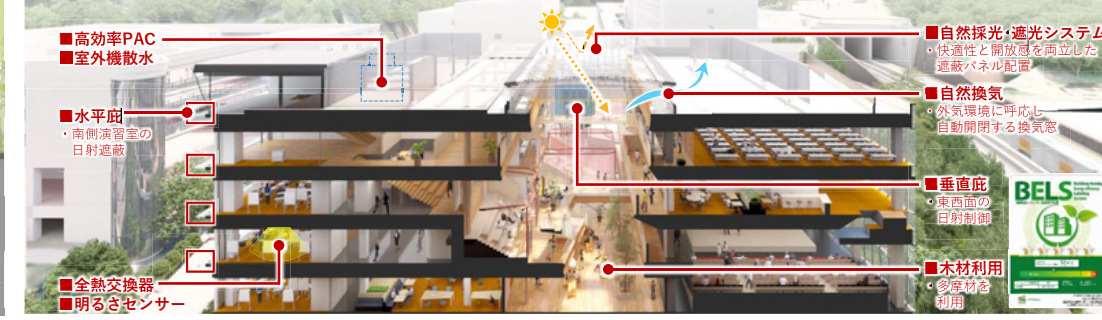


5. アトリウム全体の照度を確保する照明計画

アトリウムを挟んで南北に分かれる構成を構造的に一体化する立体トラスの補剛材や、耐久木造の柱・梁、CLT耐震壁、仕上材を含めた多摩産材を積極的利用し、一部は、森林グランドサイクルの一端として多摩森林木の伐採WSを学生・学内関係者と行い、建材利用しました。

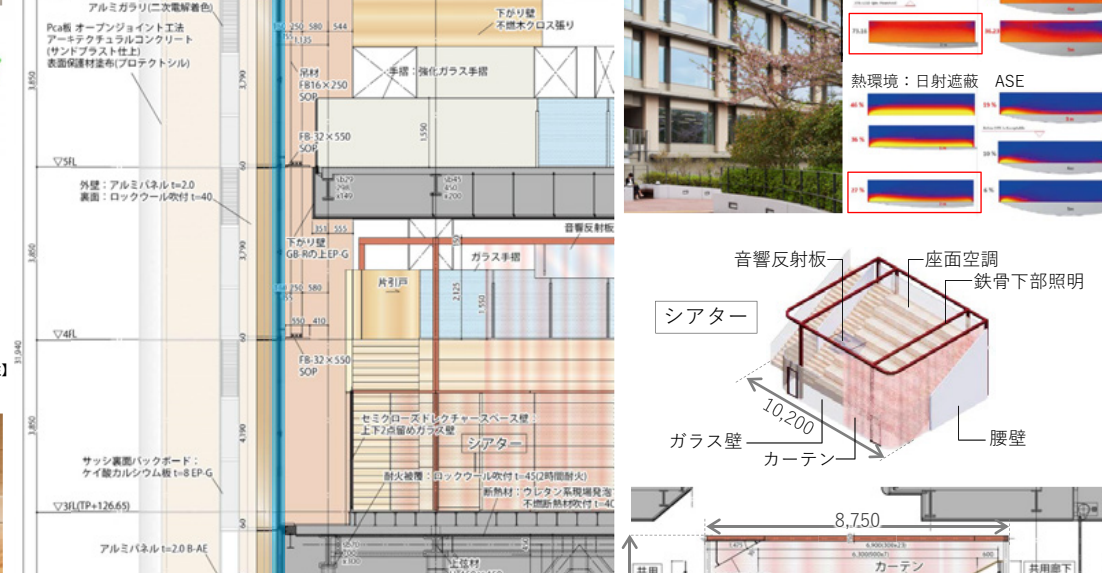
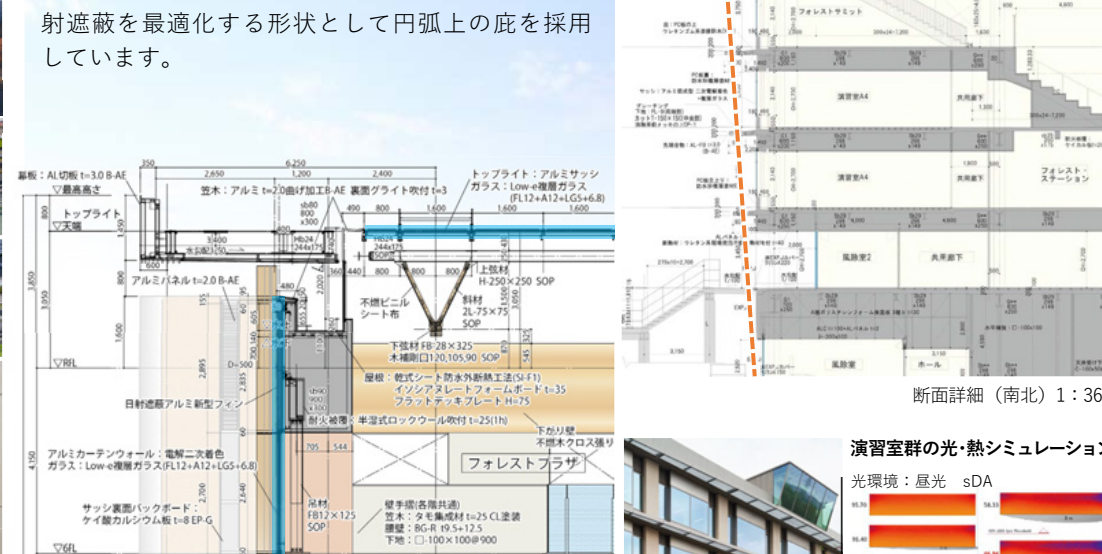


6. ワークショップでの木材を利用した家具



7. 周辺環境と連続する木質・木造を使用した構造計画

アトリウムを挟んで南北に分かれる構成を構造的に一体化する立体トラスの補剛材や、耐久木造の柱・梁、CLT耐震壁、仕上材を含めた多摩産材を積極的利用し、一部は、森林グランドサイクルの一端として多摩森林木の伐採WSを学生・学内関係者と行い、建材利用しました。

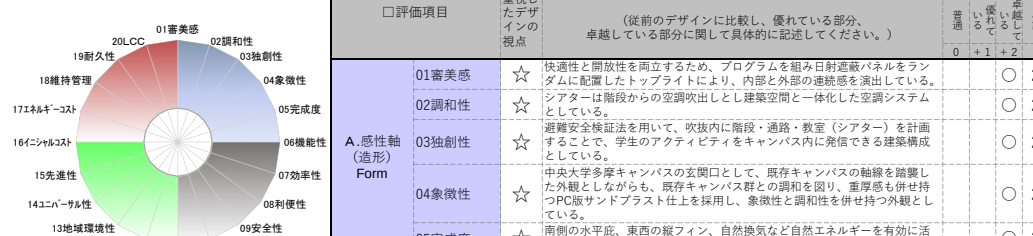


8. 空が見える教室（シアター）を覆う外装計画

空が見える教室（シアター）とアトリウムは、大型のトップライト・ACWで構成し、既存キャンパス群と対する南側ファサードは、昼光利用と日射遮蔽を最適化する形状として円弧上の底を採用しています。



評価表



建築概要

建 物 名	FOREST GATEWAY CHUO
用 途	大学
建 業 主	学校法人 中央大学
所 在 地	東京都八王子市東中野742-1
設計機工	竹中工務店
敷地面積	217,727.77㎡
建築面積	2,039.17㎡
延床面積	14,704.43㎡
新築部	12,717.97㎡
既存部	1,986.46㎡
階 数	地上6階 地下1階
構 造	鉄骨造 一部木造

